

御殿場未来教室でつながる新しい地域の輪

若者ComeBack大作戦！



掛本 萌衣(かけもと めい)
静岡県立御殿場南高等学校 1年

柴田 紘希(しばた ひろき)
静岡県立御殿場南高等学校 1年

鈴木 颯士郎(すずき そうしろう)
静岡県立御殿場南高等学校 1年

勝又 朝日(かつまた あさひ)
静岡県立御殿場南高等学校 1年

活動概要

活動の内容

①御殿場100人ミライ会議:御殿場市の現状と今後どうしたら御殿場市を発展させられるかについて地域や他校の方と意見交換を行った。②産業フェア:大学生のみならず協力して地域の子供たちに楽しんでもらえるよう企画を考え実際に運営した。③東京都立大学を訪問:東京都立大学では、御殿場市の現状やこれから私達がしていく活動について発表し、大学の先生や学生にアドバイスをいただいた。④御殿場未来教室:教え合いのできる自習室がほしいと考え、実際に御殿場南高校の生徒に来てもらい、3日目は大学生も呼び自習室を開いた。

活動の特徴(新規性・発展性)

活動の特徴として、現在の御殿場市を知り、その課題に対して自分たちで考えて行動できたということがある。例えば御殿場未来会議では、御殿場市の町づくりの現状について知り、それに対して自分達の考えを発表することができた。若い世代が町づくりに対して興味を持ち関わっていくことは、珍しいことなのではないかと知れた。今後も私達のような若い世代が増えていくことで、御殿場市の発展にも繋がっていくのではないかと考える。

活動の成果

市とランドブレイン株式会社さんの協力の下、御殿場未来教室を実施する事が出来た。自分たちの想像する教室を実現するために沢山の話し合いを行い最終日には全席が埋まる大盛況だった。また、最終日には大学生に来て頂きアンケートを実施した。その結果、満足した方が9割と高い満足度を得ることができ、私たちの考える「どうやって若い人たちが地域に関わっていききたいと思えるようになるのか」という課題の解決に1歩繋がった。

課題の設定と意図

国立青少年交流の家のオリエンテーション合宿に参加をし、御殿場の現状について知ることが出来た。その結果、今の御殿場市は40代から50代と80代の世代が多いことがわかった。しかし、大学を終えて地元へ帰ってくるはずの20代前半の世代が段々と減っていること、反対に60代から80代の高齢者が、急激に増えていることに気がついた。また、大学を終えて地元へ帰ってくる20代前半の世代が減っているのには2つ理由があると考えた。

1つ目は、大学のある町に住むことでその町の魅力に気づきその町で働きたいという思いが強くなるということだ。2つ目は、地元へ帰るメリットが薄い事が挙げられる。これは、地域の魅力が明確でないことや、都市部の生活と比べた時に特にメリットがないと感じる場合があるからだ。これらの高齢者が増えている反面20代が減っているという現状、地元へ帰るメリットは、町の担い手がいないという課題に繋がる。そのためこの後の「大学生に帰ってきてもらう」という願いを叶えるため大学生がもっと地域に触れ合う機会を増やすこと、交流をする場も作ることが大事だと考える。

課題解決のための仮説と計画

地域外に進学した大学生が地域に対して帰属意識を持続させるためには、地元との継続的な接点を持つことが重要である。例えば、地域内で定期的に行われるイベントに大学生を招待することで、地域の現状や課題を共有し、大学生の意見を積極的に取り入れる仕組みを構築する。また、プロジェクト型の活動を提供し、大学生が学びながら貢献できる機会を増やすことも有効である。これにより、大学生が「自分のスキルや知識が地域で活かせる」という実感を持つことが期待される。

さらに、地域内でのキャリアを後押しするため、大学生に地元企業の魅力や地域の将来性を伝える機会を定期的で開催することも検討できる。最終的に、自習室を含むこれらの方法は、若者が地域の活性化に主体的に関与できる場を提供し、担い手不足の解決を目指す。

御殿場市の担い手不足問題は、若者が進学や就職のために都市部へ流出し、戻ってこないことが一因となっている。これを解決するための一つの仮説として、大学生にその街へ帰ってきてもらうことを考えた。具体的な方法として、学生が主体的に集まり学び合う場として、自習室を設置することを提案する。この自習室では、学年を超えた教え合いが可能な環境を整え、個々の学びをサポートするだけでなく、人脈形成の場としても機能させる。

このような場所を作ることで、地域内でのつながりを深め、コミュニティの活性化を図ることが期待できると考える。また、自習室は単なる学習の場にとどまらず、街の課題解決や地域の発展に向けた議論の場としても活用できる可能性があるため、定期的に意見交換会をすることで生徒が貢献する機会を増やすことができる。

さらに、都市部で培った知識や経験を地元へ還元する仕組みを作ることで、若者が「帰りたい」街を目指す。こうした取り組みは、地域の魅力を再発見するきっかけとなり、最終的には地域の担い手不足の問題解決に期待できると考える。

活動で工夫できたこと

活動で工夫できたこととして、以下のことがある。

・机の形を工夫すること

自習室とする場所、「きよてんば」に行き、スペースの広さや机の数などを見て、どのような形に配置すれば無駄なく教え合いのしやすい机にできるかを考えた。その結果として、I字型に机を配置することにし、実際に利用している様子を見ても、スムーズに教え合い学習ができた。

・実際の自習室について資料などを見て学び、取り入れたこと

実際に御殿場市にある自習室を対象として、主に細かなルールや開館時間について調べ、取り入れられそうなルールなどを取り入れることができた。他にも、どの時間帯が一番人が集まりやすいのかについても調べ、開放時間を工夫するなどして、多くの生徒に利用してもらうことができた。

・大学生の方々や先生方からアドバイスを頂き活かすことができたこと

自分達だけの考えだけではなく、周りの方の意見を聞き、取り入れることで、新たな視点を持つことができるようになった。また、自分達の意見をしっかりと持つことで、ただアドバイスの通りにするのではなく、どうしたらそれを自分達の意見に上手く活かすことができるのかも考えることができ、自分たちらしい意見にまとめることができた。

・自習室についてのポスターやビラ配りを行い、宣伝したこと

この自習室について、日時、場所、簡単な地図などを載せたポスターを制作し、学校で各クラスに掲示してもらうとともに、集会のときや部活動内で告知を行い、多くの生徒に自習室について知ってもらうことができた。また、朝早く学校に行き、通り過ぎる生徒を対象にビラ配りも行い、少しでも多くの生徒に利用してもらえるように呼びかけるようにした。その結果、自分達が想定していたよりも多くの生徒が自習室に来てくれて、満足のいく結果となった。



てんばの日産業フェアで地域の子供が喜ぶイベントブースを出展

掛本 萌衣

7月から始まったこのプロジェクトを通して、私は様々なことに触れ、体験し、学んできた。どの体験も自分にとってとても新鮮なもので、このプロジェクトに参加して良かったと心から思うことができた。そんな私たちの実践活動のなかで私が学んだことは主に3つある。

1つ目は人とのつながりについてだ。私たち高校生だけで企画はできても実践するためには場所の確保や宣伝活動など準備することはたくさんあり、私たちだけでできる活動のほうに限られている。そんななかで御殿場100人ミライ会議に参加して地域の色々な方々とつながりを持つことができた。それによって、自分たちの活動範囲が大幅に広がったように感じる。自分の力だけでできることのほうが少ない私たちは多くの周りの方々の手を借りることが大切だと知り、そのためには人と人とのつながりを大切にすべきだと知った。

2つ目は自分達で企画したものが良い評価を受けられることの嬉しさだ。主に産業フェアを行うときに自分たちで子どもたちに楽しんでもらえるよう、大学生にも協力してもらい輪投げやクイズなどを考え、資源調達や企画の準備と実際に運営をした。そのなかで自分たちが一生懸命作ったものや考えた遊びで子どもたちが笑顔で楽しんでいる姿を見て、自分たちの努力が報われたような気持ちになり自然と私自身も笑顔になることができた。

3つ目は情報発信の大切さについてだ。私たちは今回自習室を3日間に分けて行った。1日目、2日目は自分たちの周りの人に宣伝することしかしなかった結果、2日間で集まった人は合計で1人だけだった。そこで私たちはチラシを作り、配ることにした。自分たちでチラシを作り、全校に呼びかけ、昇降口でもチラシ配りをした。その成果もあり、3日目には20席すべて満席にすることができた。集計したアンケートにもっと席を増やしてほしいと書いてもらえるくらいに人を集めることができた。実際にチラシを配ったり多くの人の前で宣伝したりすることは自分たちからすると、とても緊張することだが、受け手からすれば大きな情報源になるからどんな活動をするにも情報の発信は大切だということがわかった。自分から話しかけ、新しい情報を手に入れることや、受け手が見やすいと思ってもらえるようなスライドやチラシ作りなど、この活動に参加する前の私ではできないようなことを経験することができた。

今後、今まで私たちが行ってきた活動をさらに大きくしていきたいと考えている。きよてんばでの活動から実際に空き家を使って、御殿場南高校の生徒だけから御殿場市内にある高校の生徒さんにも声をかけて、より多くの人に使ってもらえるようにしたいと思っている。そうすることで御殿場市内の同じ学年同士のつながりや世代を超えたつながりを作ることができたり、自分たちの高校では学べない分野について教え合うことができる。また、大学生にも参加してもらうことで、普段は関わりたくても関わる機会のない人と関わることができ、学校だけでは得られないような情報を取り入れる大事な場になることができる。そして、自分たちだけでは解決できない問題を教えてもらえ、大学生も一緒に考えて答えを出すことができ、一人で勉強する時よりも効率よく集中して取り組むことができると思う。また、今後今私たちが行っている活動を大きくできたら、SNSなどのチラシよりも発信力のあるツールを活用して多くの人に御殿場ミライ教室の存在を知ってもらい、多くの人に活用し続けていってほしいと思う。

柴田 紘希

私がこのプロジェクトに参加し、様々な実践活動を行い学んだことは3つある。

1つ目は、探究活動そのものについてだ。私は今まで「探究」という言葉を聞いたことがなく、高校に入学して探究の授業が始まってからも、中学校の頃にあった総合の授業と大して変わらないものだと思っていた。しかし、今回のプロジェクトに参加して、自分達で問題に対して課題を立て、解決方法を探し、それを実践する、という探究活動の流れを行ったことで、これまでの総合の授業とは違うとはっきりと思った。

その理由は、課題の設定、実践活動などが全てにおいて「自由」だからだ。探究活動では、自分の調べたい課題に対して、様々な観点から課題を解決するための行動をすることができると知った。そして、自分で考えて行動するということは、大変だけど、とても楽しいことである、と思うことができた。

また、学校の授業での探究活動でも、学んだことを活かして、積極的に話し合いに参加したり、実践計画を建てたりして、探究活動を楽しんでいる気持ちが強くなった。

2つ目は、御殿場市についてだ。私は今回のプロジェクトに参加する前は、あまり御殿場市について詳しくなかった。しかし、今回の活動で御殿場市をより良くするにはどうすればよいか考えて行くうちに、自然と御殿場市に対する自分なりの理解や展望を持つことができるようになった。そして、自分が住んでいる町にはまだまだ知らないたくさんの魅力がある、ということに気付くことができた。また、市役所の仕事についても触れることができた。市役所の方々と協力して仕事をしているうちに、市役所が抱えている課題の一つ、空き家問題についても触れ、私は個人的にこの内容に強い興味を持った。そして、実際に御殿場市の空き家の数、どの場所に多いかなども調べて、自分で軽い探究活動を行うことができた。

3つ目は、協調性についてだ。今回の活動を通して、私はたくさんの人と関わり共に御殿場市をより良くするために協力して課題に取り組んできた。例えば、同じ高校生同士だったり、市役所の方だったり、役職を挙げればきりがないだろう。しかし、立場は違えど、私達は同じ目標である、「御殿場市をより良くする」ことを目指して来た。以上のことから、私は今回の活動を通して、御殿場市について深く理解し、その現状を知り、課題を立て、それを解決するために何をすればよいか仮説を考え、それを実践する、探究活動を行うことができたと思う。そして、これからの展望として、

- ・自習室の規模を拡大すること

現在の自習室を開いている「きよてんば」での開催頻度を多くしたり、対象とする生徒を御殿場南高校の生徒以外にも対象にしたりして、より多くの人に自習室を利用してもらえるようにする。

- ・自習室の知名度上昇

今までの活動は一度新聞に取り上げられたことがあったが、それ以外のメディアに触れられたり、自分達でもSNSを活用したりして、自習室に関する情報を発信していきたい。このようなことが挙げられる。そして、最終的には御殿場市の抱える空き家問題にも繋げていきたいと考えている。具体的には、御殿場駅前などの使われていない空き家を市からお借りして、自習室などにリノベーションしたい。これを行うことで、空き家を御殿場市の新たな観光資源として扱うことができるようになると思う。私達は、「御殿場市について自分たちが深く理解し、行動すれば、新たな地域の魅力を発信できる」という最終的な目標のもと、これからも探究活動を続け、地域の魅力を発信していきたい。

鈴木 颯士郎

私は探究活動を通じて、地域の課題を発見し、解決に向けて行動してきた。その中で、大学生が町を離れ、町の担い手不足が深刻化している現状に注目した。この課題を解決するため、「大学生がいつか町に帰りたくなる町づくり」を目標に、これまで学んだことを活かして活動を進めている。

今までの活動と学びとしては次の3点がある。

1点目は地域探究プロジェクトだ。観光客を増やすためには、町の魅力を正確に把握し、それを効果的に発信することが重要であると学んだ。また、ターゲット層に合った改善策を考える必要性を実感した。2点目は御殿場未来会議だ。地域の活性化に取り組む中で、住民同士のつながりが町の活力に直結することを理解した。特に、住民の意識や行動を変えるには、持続可能な取り組みが必要である。3点目は御殿場市産業フェアの開催である。地域の結びつきを深めるために親子向けの遊びイベントを企画した。この活動では、交流の場を作ることが地域全体の結束力を高めると学んだ。「人と人をつなぐ場」の重要性を改めて実感した。

大学生が「帰りたくなる町づくり」にも実践した。今までの経験を基に、「駅前に教え合いが可能な自習室を設置する」という取り組みを開始した。この自習室は、地域住民と若者が「学び」でつながる場を目指している。具体的な取り組みとしては、まず作るに当たってどうすれば設置できるのかについて考えた。地域の協力を得て、市長や住民に働きかけ、自習室を駅前に設置した。目的は学生が気軽に利用できる場を提供し、地域とのつながりを強化すること。

集客方法としては、自習室を広く知ってもらうため、チラシを作成して配布した。その自習室の結果と反応としては、初日と2日目の利用者は1名のみと少なかったものの、チラシを配布した3日目には利用者が30人ほどまでに増加した。また、新聞社からの取材も受け、地域での認知度が上がった。

今回の活動を通じて、学んだことは3つある。1つ目は具体的な仕組みの設計と実行力だ。課題解決にはアイデアを具体化し、実行に移すことが不可欠である。自習室設置の経験から、実行力の大切さを学んだ。2つ目は継続的な取り組みの重要性だ。初期の成果が小さくても、努力を続けることで成果を得られると実感した。特に広報活動の工夫や、自習室を実際に利用して下さった方の意見を参考に改善していくことが重要である。3つ目は地域との連携だ。市長や地域住民との連携により、個人では実現困難なプロジェクトを形にすることができた。地域全体を巻き込むことの重要性を再認識した。

今後の展望としては、自習室の活用促進をしたいと考えている。利用者同士が交流できる仕組みを追加し、勉強会や成果発表の場を設ける。空き家をリノベーションし、自習室利用者量の拡大に努める。また、ターゲット層の拡大にも着目し、大学生に限らず、高校生や社会人も利用できる形にし、多世代交流を促進する。そして地域イベントとの連携をとること。自習室を拠点に、地域文化や特産品を活かしたイベントを開催し、町全体の活性化につなげようと考えている。

今回の活動を通じて、課題解決に向けた具体的な行動を起こすことの意義を強く感じた。今後は、空き家を利用した自習室を拠点に、地域のつながりを強化し、大学生が「帰りたい」と思える町づくりを目指して活動を続けていこうと考えている。これからも挑戦を重ね、地域の未来を切り拓く力になりたいと思う。

勝又 朝日

今までの探究活動を通して、初めは自分たちで出来ることなんてあるのか、と不安なことも沢山あった。しかし、地域の方々と交流する機会が増え、今後御殿場市をどういう町にしていきたいかを話し合い、自分たちが高校生だからこそ出来ることがあるのではないかと、思うようになった。そこで、「どうやって若い人たちが地域と関わっていききたいと思えるようになるか」の問いのもと様々な実践活動を行ってきた。そこでは、沢山の疑問と向き合った。自分たちが行っている活動は御殿場市に今後どういった効果をもたらすことが出来るのか、なぜ今回行った活動をすると問いの結果に繋がるのか、考えたらキリがないことばかりだった。しかし、仲間と最後の最後まで話し合うことやみんなの意見を合わせたり、工夫をしたりしながら私たちが正しいと思う考えを出すことができた。

その中でも自分たちで企画・運営をした御殿場未来教室はとても印象に残っている。計3回行った御殿場未来教室は、初めの2回は中々人に来て貰えず、どうしたら来たいと思えるような自習室をつくれるのかとても悩んだ。そこで全校生徒の前で告知をして、朝早く来て正門でビラ配りをするなど、まずは御殿場未来教室のことを多くの人に知ってもらうことが大事だと思い行動に移した。また、3回目の実践活動では大学生が来て下さることを大々的に宣伝し、高校生と大学生が交流をするという私たちの持つ目標の1つを達成することができた。その結果、全席が満席になるほど、来てみようと思ってくれる人が増えた。これらのことから、私はこの実践活動で声掛けの大切さ、出来ないと思っていることでもとりあえず口に出してみる、自分たちの持っている目標から今の自分たちのいる地点まで逆算して物事を考えることの大切さを学んだ。また、地域の人の前で説明や話し合いが多かったことで、人前で話す機会が多くなり相手に分かりやすく内容を伝える言い回しや話し方を沢山聞いて学び、それを実践することにより元々人前で話すことが苦手な自分の成長を実感することが出来た。また今回の活動では参加していただいた高校生と大学生を対象に御殿場未来教室についてのアンケートを実施した。そのアンケートでは、御殿場未来教室をこれからも続けて欲しいという意見が多くとっても嬉しかったし、高校生と大学生の違う視点から今回の感想をいただき私の考えていなかった感想もあり、とても勉強になった。

しかし、改善点も沢山出てきた。そこで今後の活動としてはまず、1つ目にアンケートで出てきた改善すべき点を直していきたい。今回のアンケートで「席数が少ない」という改善点は私もすごく感じたことで、せっかく御殿場未来教室を知って来ていただいたのにとっても申し訳ない気持ちになった。そのため、もっと多くの人々が勉強出来るように机の位置を工夫するなど限られた中でも来ていただいたみんなが満足して使っていけるようこれからも沢山の考え、解決策を出していきたいと考えている。2つ目は、活動場所についてだ。今回は、1番初めとして市とランドブレイン株式会社さんの協力の下「きよてんば」という駅前の施設を借り、今回の探究活動を実施した。これからは、御殿場市の今の課題である空き家問題に視点を向けてこの活動を行っていきたくと考えている。空き家を使うことは、今までのように短い期間で実施までいけるとは限らない。課題も山積みだ。だけど、この活動が今後の御殿場市の活性化の1歩に繋がり、これからこの活動を広げ御殿場市に少しでも貢献出来たらいいなと思う。



御殿場未来教室のオープン！大学生が来てくれた



朝の学校で御殿場未来教室のチラシ配り

実践活動時の動画や成果物等

動画URL	二次元コード	添付PDF あり

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	関東・甲信越
---------	---	---------	------	------	--------

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立中央青少年交流の家	修了日	2024/7/15	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	観光をテーマに、株式会社時之栖さんでフィールドワークを行った。時之栖さんが取り組む魅力発信の方法を学び、今後より多くの人々が御殿場に足を運んでくれるためにはどうすれば良いか、課題を探究した。				
実践活動期間	2024/7/29 ~ 2024/11/28				
活動のタイプ	新たな活動				
協力者	主な協力者			協力内容	
	所属	御殿場市役所	活動全般の支援		
	氏名	御殿場市都市整備課さん			
	所属	ランドブレイン株式会社	活動場所の協力		
	氏名	ランドブレイン株式会社地域活力創造チームの皆さん			
	所属	静岡大学	活動当日の協力		
氏名	静岡大学教育学部の学生の皆さん				
協力者総数	16名	協力団体数	3団体		

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 20 日

事前:準備・打合せ	12日	本番:メインの活動	3日	事後:ふりかえり・報告	5日
-----------	-----	-----------	----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
新聞	取材された	1回	地元の新聞社から取材を受け、掲載された。
SNS	取材された	3回以上	学校の探究活動サイトに掲載された。

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
9/17 ~ 9/17	①事前学習・打合せ等	御殿場市民交流スペース「きよてんば」	御殿場100人ミライ会議に参加して、市民の方々とまちづくりについて意見交換をした。
9/21 ~ 9/22	①事前学習・打合せ等	御殿場市民会館	ごてんば産業フェアに企画したブースを出展して、地域の子どもに楽しんでもらった。
10/23 ~ 10/28	①事前学習・打合せ等	御殿場南高校・交流スペース「きよてんば」	御殿場未来教室の開催について市とランドブレイン株式会社の方々と打ち合わせをした。
11/18 ~ 11/21	②実践活動本番	交流スペース「きよてんば」	御殿場未来教室の第1弾として、教え合いができる自習室を開き最終日は大学生も参加。
11/25 ~ 11/27	③事後打合せ・報告会等	御殿場南高校	実践活動本番で参加者にお願したアンケートの結果を集計して次回の開催を検討した。

大学生訪問！！

教え合いながら勉強 の理解を深めよう！

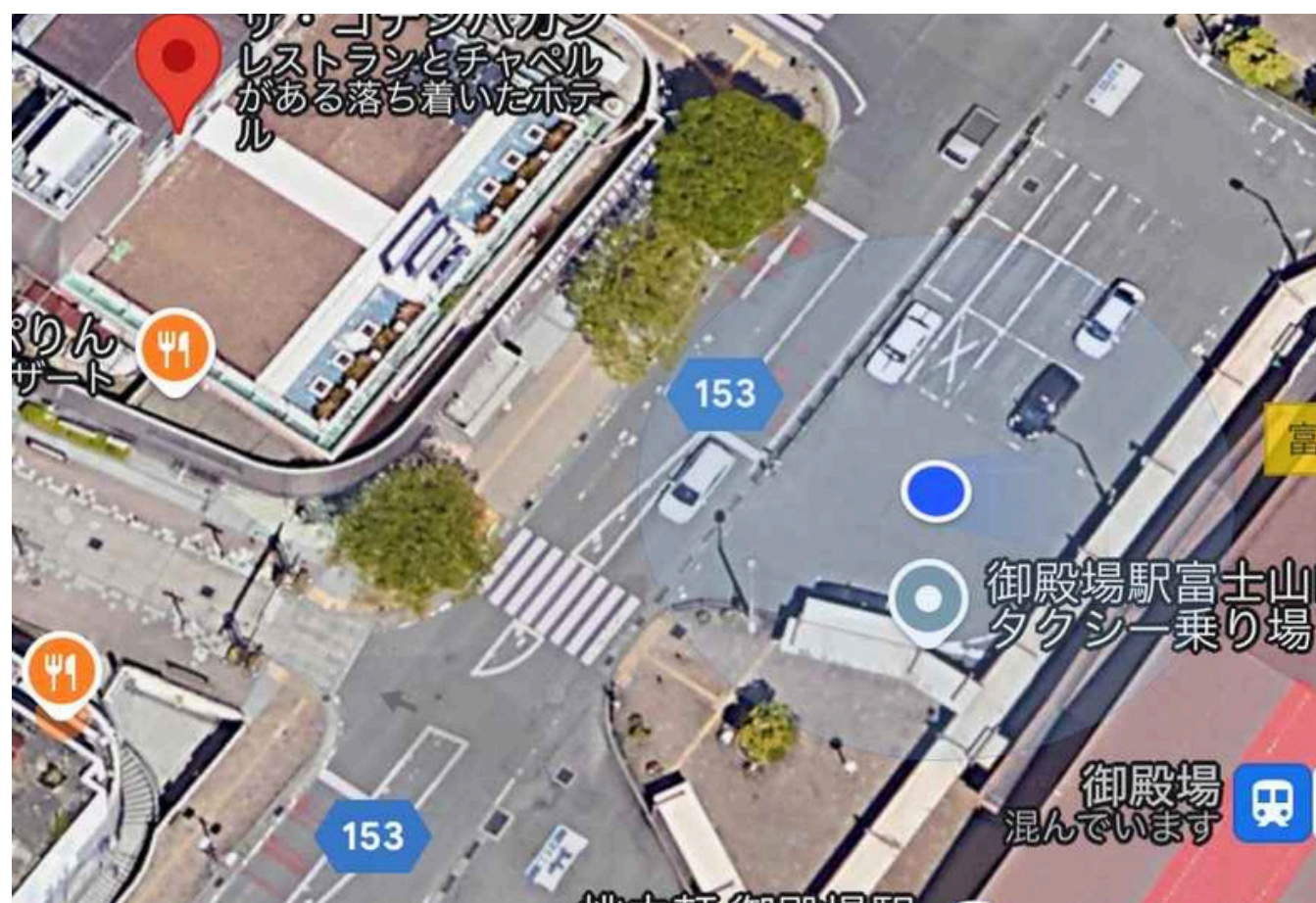
11★21 (木)

17:00 ▶ 19:00

PLACE ザ・ゴテンバカン 一階

★ 駅から徒歩1分

電車の待ち時間など
ちょっとした待ち時
間にご利用くださ
い！



御殿場未来教室：自習室

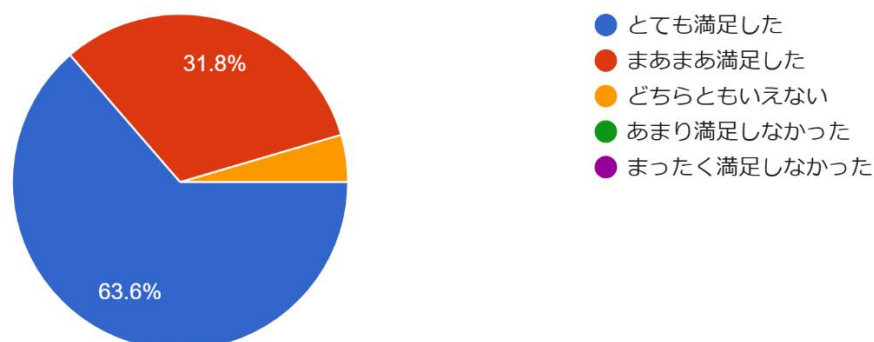
チープロ

御殿場未来教室参加者アンケート(2024年11月21日)

回答数:22人(うち高校生10名・大学生12名)

今日の未来教室への参加は満足しましたか？

22件の回答



◎その理由を教えてください

【高校生】

- ・よかった。
- ・友達と教え合って理解を深めることができた。
- ・友達と教え合うことによって理解が深まることができた。
- ・大学生の人が優しくかった。
- ・みんなで話しながら教えてもらいながら勉強ができたから。
- ・自分の課題を進めたり友達に教えたりと有意義な時間が過ごせた。
- ・自習室は集中出来るが、静かにしなければいけないので教え合いが出来ないというデメリットがあったけれど、この自習室は話し合いができるのでわからない問題を教え合うことができるから良かった。
- ・友達と話しながら勉強できて楽しかったから。
- ・いつものテスト勉強よりもしっかりとした。
- ・理解ができたと思ったから。

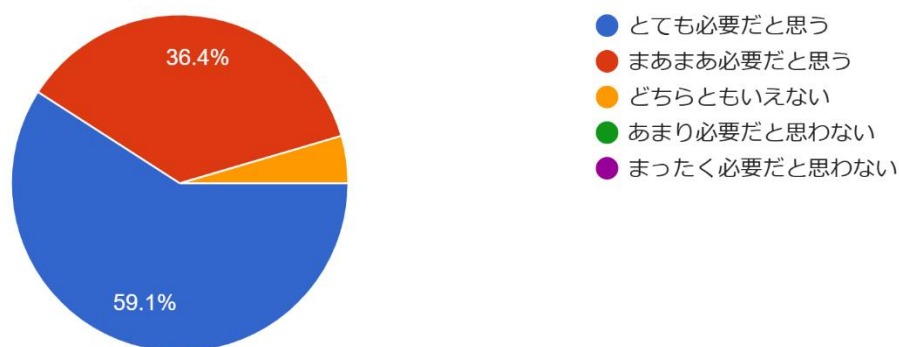
【大学生】

- ・話し合えることによって、協力することができるから。
- ・高校の勉強を振り返り、今の高校生の悩みに答えることができたが、自分では解決できない問題があったからもっと勉強したい。
- ・学校後に勉強する場所があるのは、その場所に行くことで勉強時間をつくるルーティンみたいなものを各々で作れると思うからとても良い取り組みだと思った。
- ・高校生がどのような方法で学んだり、学習方法を修正したりしているかについて、実際の現場を見ることができた。
- ・新しい取り組みであったが、高校生にとっても、大学生にとっても貴重な経験であったと感じた。

- ・学習塾に通うことができない生徒も学ぶことができるし、友達と取り組めることで高め合っていると感じた。また、大学生にとっても、勉強と再度向き合う機会となった。
- ・高校生たちがともに学びあえる場はとても貴重でなかなかないと思うからから。無料で勉強できる場を設けてくれる機会はあまりないから。
- ・自分が高校生の時には、教え合いながら勉強する機会があまりなかったので、とても刺激になっていいと思うからです。
- ・高校生と関わることができて良かったから。
- ・自分の得意分野を教えることができ、楽しく勉強することができて嬉しかった。
- ・色々な話ができただから。
- ・人数に対して少し部屋が狭かったから。
- ・みんなで対話を通して学びを深めていくことができたから。
- ・子どもたちが自由に学び会える環境ができており、学校教育と社会教育の観点から見てもよい取り組みであると思う。現在は自由に子どもたちが使える場所が限られてしまっている地域が多いと思う。だからこそ場所を提供する取り組みは今日非常に大切であると思う。
- ・高校生が楽しそうに勉強や教えたいがなされていて良かったと思います。

教え合いのできる自習室は必要だと思いますか？

22件の回答



◎その理由を教えてください

【高校生】

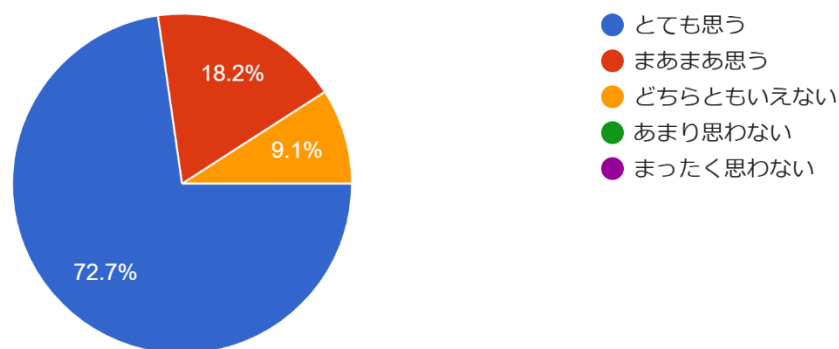
- ・学びを深められるから。
- ・わからない問題をそのままにしまうため
- ・教え合うことによって理解が深まるから。
- ・わからないところを聞けるから。
- ・勉強する場所があることでモチベーションが上がるから。
- ・教える側も教わる側もどちらも理解が深まるから。
- ・わからない問題をいつでも聞くことができるのですぐ問題解決に繋がるから。
- ・教える側も教えてもらう側も勉強になるから。
- ・わからないところをすぐ聞けるので勉強のやる気があるうちにわからないことを聞くことができるから。

【大学生】

- ・個人で集中することが苦手な人もいるため。
- ・それによって自分の振り返りになり、自分の学びになるから。
- ・誰かに教えることは一番勉強になる。学んだことの言語化大事。
- ・分からないことを言い合える環境はとても大切だから。
- ・高め合って取り組むことができるため、必要であると思う。また、無料という点も、多くの生徒にとって利用しやすいと思う。
- ・教え合える場はなかなかないと思うから。また、学校以外に教え合う機会があることで深い学びにもつながると思うから。
- ・教え合い、話し合うことで身につく知識があり、1人で勉強するよりも生きた知識になると思ったからです。
- ・対話によって学習は深まっていくと思うし、聞き合える自主室は教える側にとっても教えられる側にとっても意味のあることだと思うから。
- ・一人でやることも大切だが、教える側にも教わる側にも利益のある活動だと思うから。関わり合う中で得られるものがあると思うから。
- ・他者との協働によつての学び及び気づきがあるから。
- ・学びを深めていくためには知識のインプット、アウトプットが必要であり、対話を通すことで改めて知識を構築していく機会になる。教員から教えてもらう機会だけでなく、それを自分の知識として教える機会を設けることで、記憶としてより定着し、将来に役立つ力になると思うから。
- ・ルールは大事だと思います。教え合うということは話していい、つまり遊んでもいいという人が誤解しないようにする人ももしかしたら出てきてしまうので。

次回も開催してほしいと思いますか？

22件の回答



◎感想や改善してほしいこと、これからやってほしいことなど、もしあれば記入してください

- ・机が少ない気がした。
- ・とても教え甲斐があり面白かったです！また呼んでください！
- ・先輩が後輩に教えられるような関係性が築ければいいなと思った。
- ・これからも無理なく続けていってください！
- ・利用者カードなどで参加の有無を確認できると良いと思う。
- ・応援してます！！また大学生の力が必要だったら気軽に言ってください
- ・もうちょっと広いところでできたらいいなと思った
- ・席が少ない
- ・席をもう少し増やした方が良いと思いました